



＜坊谷隧道が見やすくなるように草刈り＞



＜第165号架道橋は通り抜けられます＞



＜加太地区で最長(930m)の加太隧道＞

明治時代に建設された鉄道のトンネルや橋梁が今も残る、加太地区の鉄道遺産。当時の面影や風情を感じさせるとともに、125年以上の年月を重ねた今もなお、現役の構造物として使用されています。そんな鉄道遺産を生かした地域の魅力づくりにチャレンジしているのは「加太鉄道遺産研究会」の皆さん。加太地区にしかない歴史的遺産を活用し、地域の活性化に向けた活動を行っています。

### 一活動を始めたきっかけは？

「地域の活性化を目指し、“加太の魅力”を探していたときに、この鉄道遺産が浮かびました。普段見慣れていて気付かなかったのですが、調べていくうちに、現役の路線に十数カ所の歴史的構造物が密集しているのが、全国的にも珍しい

と分かってきました。そこで、地元有志や元JR職員などが集まって、この活動をスタートさせました。」  
一具体的にはどのような活動を？

「鉄道遺産を見て回る散策ルートを考案し、案内表示板を設置しました。また、『鉄道遺産を巡る散歩みち』という地図を作成し、JR西日本にもご協力いただいてJR加太駅に置いて配っています。普段は、鉄道遺産周辺の草刈りをしたり、訪れる人たちに鉄道遺産の歴史や魅力を正確に伝えようと、自分たちで作った案内マニュアルを使ってガイドの練習をしています。」

### 一鉄道遺産の魅力は？

「近くで見ると、鉄筋コンクリートが実用化されていない明治の当時に、山あり谷ありの土地にこの

ようなトンネルや橋梁が作られたことに驚きを感じます。また、丁寧なレンガ積みや石積み、強度を持たせるための美しいアーチなど、当時の技術や工夫を発見できるのも魅力です。さらに、レンガ造りの温かみを感じるとともに、何だか懐かしい気分させてくれるのも良いですね。」

### 一これからは？

「この鉄道遺産を生かして、加太地区全体の活性化につながればと願っています。加太を訪れる人、それを待ち受ける加太の人の両方に喜んでもらえる関係の構築や環境の整備が進めばと考えます。この加太地区の財産ともいえる鉄道遺産をきっかけに、“魅力ある加太”について地域のみみなで考え、作り上げていきたいと思ひます。」



## 亀山市名誉市民

### 彫刻家 中村 晋也

#### 作品紹介「ふるさとあい」Vol.8

### 「豊臣秀頼公」(平成23(2011)年制作)

1611年、京都二条城で19歳の豊臣秀頼と会見した徳川家康は、秀頼の聡明さに焦りを覚えたといわれます。1615年、徳川軍に大坂城を攻められ、淀殿・秀頼母子は自害し豊臣家は滅亡します。この像は秀頼が生前に描かせ真田幸村に与えたといわれる肖像画をもとに、父・秀吉と母・淀殿に溺愛された理想の息子として、ふくよかで愛らしい姿に表現されています。その後も豊臣家の人気は絶えず、秀頼が大坂城を抜け出して薩摩へ落ち延びたという伝説が語り継がれ、秀頼のものといわれる墓が今も鹿児島に残っています。



玉造稻荷神社(大阪市)

特別協力 公益財団法人中村晋也美術館 [URL http://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/index.html](http://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/index.html)